

資料配布の場所

1. 国土交通記者会
2. 国土交通省建設専門紙記者会
3. 国土交通省交通運輸記者会
4. 筑波研究学園都市記者会

平成25年 6月14日同時配布

平成25年 6月14日
国土交通省
国土技術政策総合研究所

国総研が民間3社と砂丘を守るSP「浜崖後退抑止工」を開発 ～7月2日につくば研究交流センターで報告会開催～

国土技術政策総合研究所（以下、国総研）は、共同研究「海岸保全における砂袋詰め工の性能評価技術に関する研究」（H22～H24）参加メーカー3社と共同で新たな海岸保全工法「浜崖後退抑止工」（※）を開発しました。

国総研とメーカー3社共催で、平成25年7月2日(火)、文部科学省研究交流センター（つくば市竹園 2-20-5）にて、共同研究の成果である「浜崖後退抑止工の性能照査・施工・管理マニュアル」（以下マニュアル）の報告会を下記のとおり開催致します。

報告会では、マニュアルのポイント説明に加えて、東京大学佐藤教授を座長に迎えパネルディスカッションを行います。現地試験を実施した現場の関係者に出席いただき、成果と課題、今後の期待について議論します。

参加ご希望の方は、下記の申込方法により事前にお申し込み頂きますようお願い致します。なお、入場は無料です。会場の収容能力から定員170名を予定しております。定員を上回る場合は先着順とさせていただきますことご了承ください。

皆様のご来場をお待ち申し上げます。

記

1. 日時

平成25年7月2日（火） 13時30分～16時00分

2. 場所

文部科学省研究交流センター（つくば市竹園 2-20-5）

3. プログラム：別添

4. 申し込み方法：

参加希望の方は、資料準備および現場準備の都合上事前に申し込みをメールでお願いいたします（7月1日（月）締切）。但し、会場収容能力の都合上先着170名までとさせていただきます。

<問い合わせ先>

国土交通省国土技術政策総合研究所
河川研究部 海岸研究室 室長 諏訪 義雄
TEL 029-864-3163 / FAX 029-864-1168
E-mail kaigan@nilim.go.jp

※ 浜崖後退抑止工とは

- ・ 浜崖後退抑止工は、浜崖の基部を砂袋詰め工（以下サンドバック(S P)という）と養浜で保護することにより浜崖の後退を抑制する工法です。
- ・ 国土技術政策総合研究所と民間会社 3 社（ナカダ産業（株）、前田工織（株）、三井化学産資（株））と共同研究で開発しました。

→特許出願 2 件（写真 1）

- ・ 浜崖後退抑止工は、天端高を低くするとともに現地の砂浜になじんだ色のサンドバック(S P)を用いることで景観に配慮できます。（写真 2）
- ・ サンドバック(S P)は、現地の砂や養浜材をポンプ等で布袋に充填することで迅速かつ経済的に施工できます。

→コストはコンクリート製護岸の約 8 割

- ・ サンドバック(S P)は海外で広く用いられていますが、波浪が大きく砂礫浜が多い日本の海岸では摩耗や波の作用に対する不安からこれまで用いられませんでした。
- ・ 共同研究では、現地実験、水理実験、劣化促進試験等によってサンドバック(S P)の劣化予測や波力に対する必要重量算出等ができるようにし、適用可能な海岸の条件を明らかにしました。

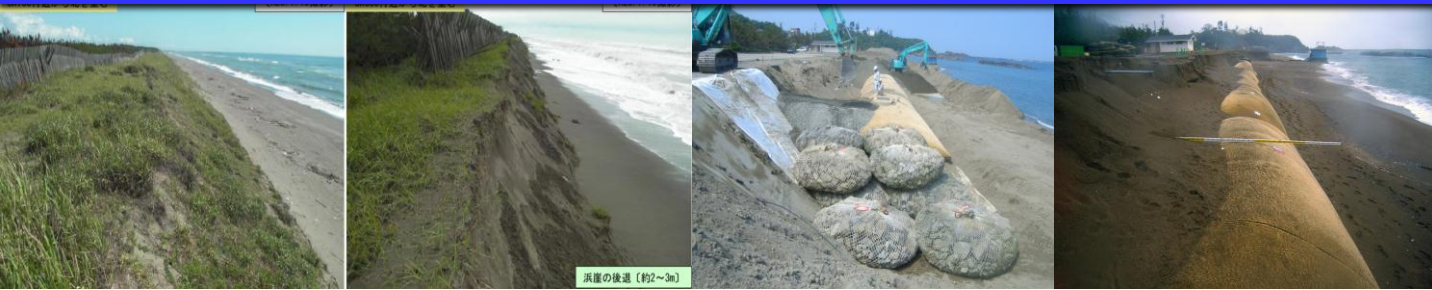


写真 1 突合せ部の開発（特許出願中）



写真 2 現地の砂浜に馴染んだ色のサンドバック（S P）

国土技術政策総合研究所共同研究 「海岸保全における砂袋詰め工の性能評価技術に関する研究」 成果報告会



平成22年度～24年度に実施された標記共同研究の成果として、国総研資料「**浜崖後退抑止工の性能照査・施工・管理マニュアル**」共同研究「海岸保全における砂袋詰め工の性能評価技術に関する研究」報告書 本編―(案)を策定致しましたので、**報告会を開催**致します。

「浜崖後退抑止工」は、砂袋詰め工（以下、サンドバック(SP)）を用いて浜崖を守る工法です。

サンドバック(SP)は、現場砂浜又は養浜材料となる砂を土木用繊維でできた大型の布袋（バック）に充填するものです。

主催：国土技術政策総合研究所、ナカダ産業(株)、前田工織(株)、三井化学産資(株)

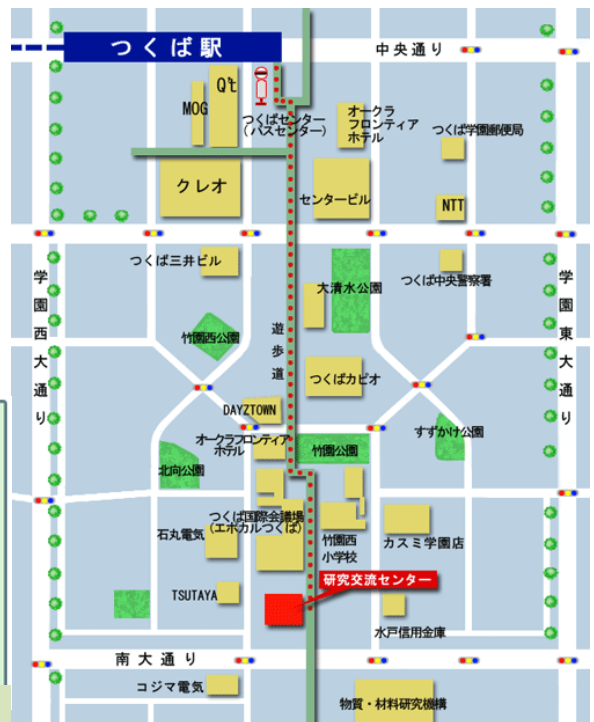
協賛：建設コンサルタンツ協会海岸・海洋専門委員会、国際ジオシンセティックス学会日本支部

マニュアルは、報告会の1週間前に国土技術政策総合研究所ホームページの「研究部のページ」内河川研究部海岸研究室にてPDFにて公開致します。

本報告会は土木学会・建設コンサルタンツ協会のCPDプログラムとして認定されております。

日時：平成25年7月2日（火） 13:30-16:00（受付13:15より）

場所：文部科学省研究交流センター（つくば市竹園2-20-5）



TX	秋葉原駅	つくばエクスプレス 快速 45分	つくば駅
JR	上野駅	常磐線 特急 43分	土浦駅
バス		バス約 25分	つくば駅
高速バス	東京駅 (八重洲南口)	つくば号 65分	つくば駅
		常磐線 各停 60分	ひたちの牛久
		バス約 25分	つくば駅
		徒歩 20分	つくば駅

駐車場70台分ございます（当日先着順とさせていただきます）

○参加申込み

下記メールアドレスに氏名と所属を記入したメールを送付してください（7/1締切）。
会場の都合から定員170名とさせていただきます。

kaigan@nilim.go.jp

○お問い合わせ先

国土技術政策総合研究所 河川研究部 海岸研究室
Tel.029-864-4874（担当：野口）

プログラム

- 13:30 開会の挨拶 国土技術政策総合研究所 研究総務官 藤田光一
- 13:35 「浜崖後退抑止工の性能照査・施工・管理マニュアル」紹介
第1章 基本方針
第2章 浜崖後退抑止工の照査
第3章 サンドバック袋材の性能照査
第4章 施工、管理、点検・維持管理
- 14:20 休憩 (会場内にポスターを展示しております)
- 14:40 パネルディスカッション ー共同研究の成果と課題、今後の期待についてー
座長・話題提供: 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授 佐藤慎司
パネラー: 海岸管理者、建設コンサルタント、施工業者、海岸利用者、国総研・メーカー
- 16:00 閉会の挨拶 共同研究メーカー代表 前田工織(株) 常務取締役 前田尚宏

国土技術政策総合研究所
前田工織株式会社
三井化学産資株式会社
ナカダ産業株式会社

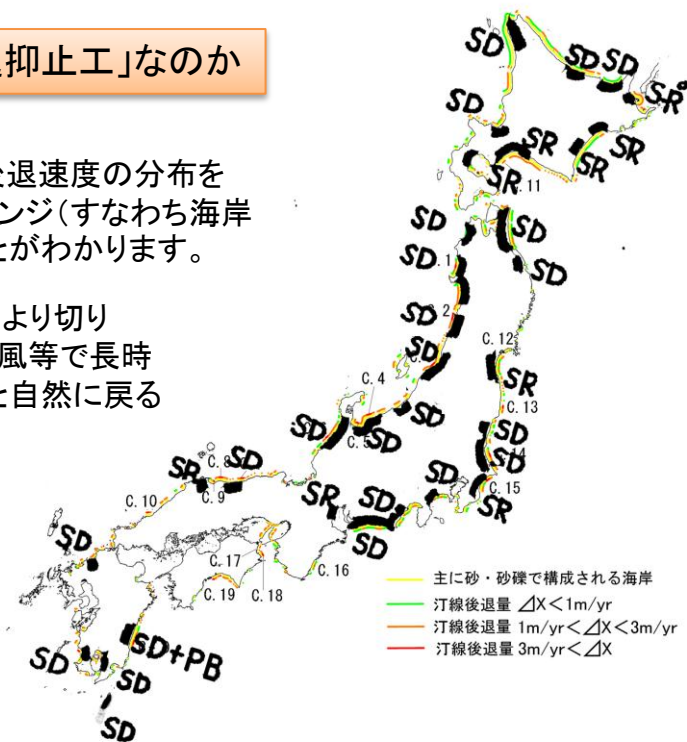
砂丘が危ない

なぜ「浜崖後退抑止工」なのか

右図は、長大な砂丘・砂浜と日本沿岸の汀線後退速度の分布を重ねた図です。図から、砂丘の前面で赤やオレンジ(すなわち海岸侵食が起きている)になっている場所が多いことがわかります。

浜崖とは、海岸の砂丘等に波が衝突することにより切り立った崖面を形成する現象です。特に砂丘は、風等で長時間かけて形成されます。ひとたび削り取られると自然に戻ることは難しいものです。

→
海岸研究室調査の海岸侵食量(当所HP掲載)と我が国の長大砂丘・浜堤の分布
福本 紘(1989)地理学評論62A-2 pp.108-128.
を重ね合わせた図
黒太線が長い砂丘の位置



浜崖(砂丘)保全の重要性

砂丘は集落形成の場を提供したり、高波浪・津波・しぶきや塩害から背後地を守る自然の防災施設としての役目を果たしています

